

平成 29 年度学校経営計画

平成 29 年度～平成 31 年度

校番	11	学校名	広島県立福山誠之館高等学校	校長氏名	古前 勝教	全日制	本校
----	----	-----	---------------	------	-------	-----	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

開校以来の「文武一致」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた社会に有為な人材を育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

県立高校のリーダー校として、生徒の自主性・自律性を高めるとともに、人を愛する心を育成することにより、広く地域・県民から信頼される学校

3 目指す生徒像

広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒

4 環境分析

(1) 生徒の主体性・自律性を高め、探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校

組織的な教科指導・進路指導体制の確立	<p>○平成26年度に、従前から校内に蓄積されてきた大学入試に対する指導のノウハウ等を再構築し、教科指導・進路指導の「仕組み」として「誠之館学びのスタイル」「誠之館学びのノート」「進路シラバス」「進路面談シラバス」「データ活用マニュアル」「誠之館学びのスタートアップ」などを創った。平成27年度は「中身づくり」としてそれらを運用するとともに修正を加えてきた。平成28年度は「学びの変革の加速化」を進めてきた。平成29年には「誠之館学びの変革」の実現を成し遂げる。</p> <p>○生徒の可能性を最大限に伸ばし、最難関・難関大学や広島大学・岡山大学を多くの生徒が目指し、合格するために、平成26年度から整えてきた仕組みをきちんと運用する。</p>
教科指導力の向上	<p>学力向上の根幹は授業にある。教科指導力の向上が学力向上に直結している。身に付けた知識・技能を活用し、さらには自ら課題を発見し、課題を解決する力を身に付けさせるために、「学びの変革」加速化会議を中心に「学びの変革」の実現に取り組む必要がある。</p>
姉妹校を中心とする国際交流の推進	<p>ノルウェー、カナダなどの姉妹校と定常的な交流をすすめ、交換留学制度の定着を図り、その内容を全生徒に還元することで、本校生徒全員がグローバル意識を高めることが大切である。</p>
主体的・自律的な学習態度の育成	<p>学習時間は確保しているが、学力の到達度が十分でない生徒が少なからずいる。一方、学習習慣が身に付いており、学力の到達度が高い生徒も多い。「まじめさ」「素直さ」が本校生徒の強みである一方、「自分で計画を立てて実行する力が弱い」、「求められたこと以上のことができない」などの「弱み」をもっている。生徒自らが自分の状況を正しく判断し、主体的・自律的な学習を行うために「誠之館学びのスタイル」「誠之館学びのノート」「進路シラバス」を十分に活用させる必要がある。</p>
探究的な学びの基本的スキルを身に付けた生徒の育成	<p>「誠之ナビ」「誠之ゼミ」(「総合的な学習の時間」)において課題研究を行ってきており、生徒に探究的な学びに向かわせる取組を展開している。生徒を探究的な学びに向かわせるためには、特に「誠之ナビ」の内容についてカリキュラムを完成する。</p> <p>平成27年度に「探究コアスクール」の指定を受けてから、「誠之館学びの変革プロジェクト」を立ち上げ、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を核として、教科とリンクさせた探究的カリキュラムの作成を行っている。</p>

(2) 人を愛する心を育成する学校

人を愛する心の育成	<p>平成26年度に「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」を「目指す生徒像」として決定した。このうち「人を愛し」については、学校教育のあらゆる場面で、「人を思いやり、相手の立場に立って考え、行動する」「人がやりたがらないことや人が気付かないことをすすんでする」心を育て、行動できるようにするために、まず掃除に徹底的に取り組ませる必要がある。</p>
-----------	--

(3) 地域・県民から信頼される学校

保護者への情報発信, 保護者の行事への参加体制	平成 23 年度から, 地域別学校説明会(府中, 尾道)を実施している。平成 28 年度には小学校の児童・保護者対象のオープンスクールを実施した。オープンスクールや塾対象の説明会を通して, 本校の良さを知り, 本校で学びたい児童・生徒の育成を強化する。HP の充実や様々な媒体を通じて, 学校での様子や進路に関する情報を提供し, 本校の教育活動の理解を図る。
地域への情報発信	各種行事の案内や学校新聞を定期的に配付することで本校の理解を図る。 PTAや同窓会, 小・中学校, 市教育委員会, 他の高校などとの連携を一層深め, 本校の教育活動の理解に努める必要がある。

5 目標の設定

学校経営目標							
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等	
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度		
1 生徒の主体性・自律性を高め, 探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校							
主体的な学習態度を身に付けた生徒の育成	第2回スタディサポート(1年次)において「主体的な学習態度を身に付けられたと思う」生徒の割合	62.6%	70%	75%	75%	進路	
探究コアスクールとしての授業づくり	広島県高等学校学力テストにおける「活用・探究型」の問題における通過率 80%以上の生徒の割合	74.5%	90%	90%	90%	教務	
組織的な進路指導体制の確立	国公立大学合格者数(%)	67%	65%	65%	65%	進路	
	難関国立大学合格者数(現役)(人) (国立大学医学部医学科含)	16人	30人	30人	30人	進路	
	広島・岡山大学合格者数(現役)(人)	37人	50人	60人	65人	進路	
	模擬試験偏差値 70 以上の生徒の割合(%) (1年進研1月, 2年2月)	1年	29%	10%	10%	10%	進路 教科
		2年	8.1%	8%	9%	10%	進路 教科
	模擬試験偏差値 60 以上の生徒の割合(%) (1年進研1月, 2年2月)	1年	44%	55%	60%	60%	進路 教科
2年		49%	57%	60%	63%	進路 教科	
高い志を持ち, それを実現できる生徒の育成	2年次生の第一志望宣言における最難関・難関大学の志望率	27%	30%	30%	30%	進路 学年会	
	2年次生の第一志望宣言における広島・岡山大学の志望率	41%	40%	40%	45%	進路 学年会	
	第一志望宣言の達成率	21%	30%	30%	30%	進路 学年会	

	教科指導力の向上	1教科1実践の達成度(授業アンケートにおける多様な学習形態に対する強い肯定的評価)(%)	41.7%	60%	70%	70%	教務
	国際交流の推進	インターネットなどを利用した姉妹校等との国際交流の回数	6回	20回	20回	20回	総務
2 人を愛する心を育成する学校							
	規範意識の醸成	年間4日以上遅刻者	72%	5%	4%	4%	生徒指導
	生徒会活動等の活性化	生徒会主導による活動参加生徒数(ボランティア活動等)	455人	450人	450人	450人	生徒指導
		校内美化活動の実施(PTA活動への参加数)	557人	600人	650人	700人	生徒指導
		県総体参加者数	198人	200人	200人	200人	生徒指導
		中国大会以上出場者数	29人	30人	30人	30人	生徒指導
	生徒個人で「人を思いやること」「人に気遣いすること」「人に迷惑をかけないこと」という目標を設定し、その目標を達成しようとする態度を身に付ける	生活目標・個人評価表の個人生活目標の評価が、○(良くできた)△(できた)であった生徒の割合(各学期、各学年の総計)	90%	90%	90%	90%	生徒指導
	美化意識を醸成し、安全で美しい学校づくりを実現する	①「学校評価アンケート」により、「清掃活動に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒・教職員の割合 ②「校内は清掃が行き届いており、美しさが保たれている」と回答した保護者の割合 ③年間掃除点検の合格得点率	①85% ②96% ③70.9%	①②③ ともに 90%	①②③ ともに 90%	①②③ ともに 90%	保健
3 地域・県民から信頼される学校							
	学校説明会の実施	オープンスクール参加生徒数	589人	650人	650人	650人	総務
		地域別学校説明会参加者数	80人	95人	100人	100人	総務
		学校評価アンケートの満足度(%)	63.3%	70%	70%	70%	総務

6 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 生徒の主体性・自律性を高め、探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校			
①主体的な学習態度を身に付けた生徒の育成	<p>1 生徒の自主的な家庭学習と効果的な面談の実施 「学びのノート」を生徒各自が利用して、自主的・自律的な学習者になる。 クラス担任・教科担任等が適切な時期に適切な面接を行い具体的な指導を行う。 「Core プログラム」「My プログラム」の精選、確実な運用を行う。</p> <p>2 各自に必要な学びについての丁寧な支援の実施 生徒の習熟や目標に応じた、生徒の学力を伸ばす課題について組織として整理し、指導する。</p> <p>3 学習内容(予習・復習)の適切な指導 「学びのスタートアップ」で初期指導を行い、「学びのスタイル」で学びの型を確立させる。また、「学びのノート」を活用して生徒が自主的・自発的に家庭学習を行うよう指導する。</p> <p>4 「総合的な学習の時間」などの取組や成果などを、他の高校、大学、企業、福山市、NGO などと協議したり、発表したりする。</p>	<p>○「面談シラバス」に基づき個人面接や保護者懇談会において適切な指導を行う。面談内容の共有化を確立させる。</p> <p>○1年次生の段階で、予習・復習を中心とした学習習慣を確立させる。2年次には自分で選んだ発展的な演習、補強課題に計画的に取り組み、3年次では完全に自律的に学ばせる。</p> <p>○予習・復習を含めた生徒の学習時間を確保することを阻害するものの分析と改善に向けた指導を行う。</p>	進路 教務 学年
②組織的な進路指導体制の確立	<p>1 進路研修会の実施(早期検討会を含む) 新旧担任会での情報共有(面談シートの交換)</p> <p>2 進路検討会議の内容を高める ① 事前の検討会を行う。 ② 1, 2年次生は年2回実施。 ③ 3年次生の会議は学年・教科担任が全員参加。 ④ 入試問題研究を実施し、その成果に基づき生徒の合格判定能力を高める。</p> <p>3 「理数強靱化プロジェクト」の提言を確実に実行する。</p> <p>4 「難関大学進学者育成プロジェクト」の提言を学校全体で意識し、確実に組織的に取り組む。</p> <p>5 入試研究会等における研修成果の還元 進路指導部の調整によって、計画的に入試研究会等に参加し、教科指導・進路指導に生かす。</p> <p>6 「進路指導シラバス」「データ活用マニュアル」の活用 「進路指導シラバス」「データ活用マニュアル」に沿って手立てを確実に進行。</p> <p>7 「面談シラバス」の活用 ・各学年において「面談シラバス」を活用して指導のポイントとタイミングをとらえた面談指導を行う。 ・(最)難関大学志望者の進路希望を実現する。</p>	<p>○教員の意識変革を行い、すべての生徒が自らの可能性を信じ、高い志を持って継続的に学習する風土を確立する。</p> <p>○スタディーサポートや模擬試験の分析に基づいて指導の在り方を検証し、適切な方策を打つ。</p> <p>○難関大学の入試傾向についての分析結果を生徒の指導に有効に生かす。</p> <p>○教職員が、3年間を見通して組織的に進路指導を行う体制を確立させる。</p> <p>○きめ細やかな面談によって生徒の学習環境を把握することで、進路目標の実現に向けて適切な指導・助言を行う。</p>	進路 教務 学年

<p>③教科指導力の向上</p>	<p>1 誠之館学びの変革プロジェクト(探究コア)の完成 2 効果的な授業研究 3 生徒のための大学入試問題分析 4 授業評価アンケートの実施と活用 5 模試分析と授業のための教材化 6 到達目標を明確にしたシラバスの作成、形成的評価及び補完指導の実施 7 「逆向き設計による単元計画」、「カリキュラムマップ」の作成・実施 8 習熟度別授業の質の転換 求める学力レベル、学習内容、学習方法等についてペーパーに整理して生徒に配布し、講座編成に活用するとともに、授業の実践に生かす。 9 「誠之館授業づくりセミナー」 活用型・探究型の授業を実践している先進校、神戸大学と共働して、授業研究を行う。 10 校内自主研究グループ 「誠之館アクティブラーニングラボ(SALL)」の活動 11 「学びの変革」加速化会議の充実、決定内容の全教職員への周知徹底、組織的な実施(1教科1実践の完成)</p>	<p>○すべての教員が「どのように学ばせるか」の視点で授業を行っている。 ○主体的に学習する態度の育成のための指導方法について研究し、本校独自の指導スタイルを確立する。 ○スタディーサポートや模擬試験の分析に基づいて教科指導の在り方を常に検証し、授業を実践する。 ○形成的評価と補完学習を効果的に行う。 ○習熟度別授業の到達目標が明確にされ、指導法が確立されて、生徒の学力と志望校に応じた適切な指導を行う。 ○一方的な知識・技能の注入に終始する授業から脱却し、思考力等を育成する授業を行い、難関大学二次試験に十分対応できる学力を身に付けさせる。</p>	<p>教務 教科 進路</p>
<p>④国際交流の推進</p>	<p>1 姉妹校3校と定常的な交流を行う。 2 短期・長期留学を確実に運用し、毎年交換留学を行う。 3 交流の成果を全生徒に還元し、国際感覚を育成し、グローバル社会に貢献しようとする人材を育成する。</p>	<p>○留学生と積極的に関わり、学校内外を問わず主体的に国際交流を行う生徒を育成する。 ○将来的に国際社会に貢献する人材としての基礎力を育成する。</p>	<p>総務 教務</p>
<p>2 人を愛する心を育成する学校</p>			
<p>①規範意識の醸成</p>	<p>1 時間を守る指導 (ア)生徒自身による学校生活の在り方の振り返り (イ)遅刻・欠席者の保護者との連携 2 校内ルールの徹底、安全指導の強化</p>	<p>○生徒が中心となり、規範意識や自律心を涵養する取組を行う。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>②リーダーシップ・道徳心の育成</p>	<p>1 生徒が小学校・中学校の児童生徒などに未来創造に向けての説明や共働的な取組への働きかけを行う。 2 生徒が行う行事を生徒に完全に任せるなどして、失敗やつまづきの体験からレジリエンスの育成を図る。 3 生徒会が主体となる学校行事の計画・運営 (三大祭:文化祭・体育祭・合唱祭 等) 4 校内美化の徹底 5 挨拶の徹底 6 ボランティア活動の推進</p>	<p>○生徒会(各種委員会)が中心となって学校行事を計画し、実施する。 ○生徒に主体的に校内美化に取り組ませる。(PTA主催の環境整備活動への積極的な参加及び全員清掃と校内清掃活動の実施) ○教職員全員が、校内外を問わず、正しい挨拶のできる生徒の育成に取り組む。 ○生徒が復興支援等のボランティア活動を行う風土を確立する。</p>	<p>教務 生徒会 保健</p>
<p>③生徒会活動の充実</p>	<p>1 生徒会の主体的活動の実施 2 「文武一致」の具現化 3 近隣高校の生徒会執行部との相互交流</p>	<p>○部活動に85%以上の生徒が加入し、自主的な活動をすすめ、県大会のみならず、中国大会以上に5つ以上のクラブが出場する。</p>	<p>生徒会</p>

<p>④生徒個人で目標を設定し、その目標を達成しようとする態度を身に付ける。</p>	<p>1 生徒会を中心とした、生徒主導・生徒主体の生徒会活動の実施 2 遅刻や校則違反をした生徒などに対し、今後の改善意欲を促す指導をするとともに、内容ある生徒会行事の企画や、生徒会・ボランティア愛好会を中心とした活動の状況を様々な場面で報告するなど、他の生徒に参加を呼びかけ生徒に達成感を感じさせる取組</p>	<p>○生徒の生活状況の改善や集団の一人として取るべき適切な行動、他者に対する思いやりのある行動などに対してすべての教員が適切に支援を行う。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>⑤美化意識を醸成し、安全で美しい学校づくりを実現する。</p>	<p>1 全員掃除の在り方を抜本的に見直し、新しい掃除の方法で教職員・生徒全員で取り組む。 2 「誠之館 清掃 10 箇条」にそって全教職員で掃除の仕方を指導する。 3 掃除を通して「人を思いやり相手の立場に立って行動する」「人がやりたがらないことや気付かないことを率先してする」心を常に意識しながら清掃を行う。 4 環境美化委員が掃除点検を行い、清掃状況を評価し、改善点を探る。</p>	<p>○生徒・教職員全員が毎日時間いっぱい集中して清掃を行う。 ○学校周辺及び校内清掃活動を通して、クラスで協力して積極的に環境美化を行う。 ○掃除点検することで、清掃状況を把握し、よりきれいにすることを意識させる。</p>	<p>保健</p>
<p>3 地域・県民から信頼される学校</p>			
<p>①学校説明会の実施</p>	<p>1 学校が主催する地域別学校説明会の実施 2 オープンスクール等での生徒による学校紹介、案内等の実施 3 小学校児童・保護者対象学校説明会の実施 4 中学校、校長対象学校説明会、進路指導主事等対象学校説明会の実施</p>	<p>○職員全員が本校の目指す学校像を理解し、本校の良さを外部の人に理解してもらうことに取り組む。 ○本校に学ぶ生徒が母校に自信と誇りをもち、伝統の継承者となるとともに、本校の良さをPRすることができるようにさせる。</p>	<p>総務</p>
<p>②保護者への情報発信保護者の学校行事への参加体制</p>	<p>1 HP の即時掲載・更新 2 学年通信・進路通信などの情報発信 3 学校行事の案内 4 PTA との連携による入試説明会・環境整備講演会の実施 5 各種行事におけるアンケートの実施</p>	<p>○学校の行っている教育活動への理解を深めるために、様々な情報を発信する。 ○行事等の案内にとどまらず、行事を通して育てたい生徒像の実現を図る。</p>	<p>学年 進路 総務 保健</p>
<p>③地域の学校への理解</p>	<p>1 HP の即時掲載・更新、フォーマットの見直し 2 定期的な学校通信の発行 3 本校への学校アンケートの実施</p>	<p>○学校の行っている行事等、本校の教育活動をアピールする。 ○全教職員が、地域から信頼される学校づくりを意識して教育活動に取り組む。</p>	<p>総務</p>